

# 森りょうじ リポート。(98号)

～ 森が動く、皆さんと一緒に動く。～

## ■声を、届ける。(令和2年度予算要望)

9月の決算審査を終えて、行政・議会内部では来年度に向けた予算づくりに取り掛かり始めています。

税収が増えている流山市ですが、人口増加に伴い必要な支出も増えています。そのような状況から“あれもこれも”と要望しても実現性は低くなるため、会派内で議論を行い、厳選した事業を要望しました(裏面特集)

## ■『議員は普段何をしているの?』

日常活動の中では、表題のようなご質問を頂くことがあります。その際は以下の事例を並べて説明します。

『議会が開かれていない時は委員会・監査委員活動、会派・個人活動(駅頭・ポスティング・市民の方との意見交換会や市民相談の対応)

また研修会の参加や講演活動なども行います。その他個人の調査研究テーマに関して、関係者にヒアリングをしたり、現場に足を運び実状を見たり



※VR技術を使った認知症体験会に参加(10/8)

して、次の議会質問に向けた準備を進めます』

そこで裏面(右枠)では、現在調査している内容、また関心を寄せている分野について纏めてみました。

## ■陳情・市民相談に応じています。※一部抜粋

- ① 障害者施設運営、団体運営のサポート
- ② 江戸川台東・西地区の遊歩道整備に向けたサポート
- ③ 大学4年生の卒論サポート(テーマは地方政治)

○1976年6月12日流山生まれ(43歳) ○家族:妻

※サラリーマン家庭(父はNTTに勤務)で育つ

流山市立新川小、流山市立北部中卒業

日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000年4月 大成建設株式会社に入社(管理部ほか)

○2003年4月 流山市議会議員に初当選(2,692票)

○2011年4月 流山市議会議員二期目当選(4,508票)

○2015年4月 流山市議会議員三期目当選(5,830票)

○2019年4月 流山市議会議員四期目当選(8,961票)

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

# 森りょうじ

# 森が動く。



流山市議会議員

討議資料

流山市でいじめ問題に関する報道がありました。議会は教育委員会から一度説明を受けましたが、今後は様々な角度からの検証や対応が求められることとなります(11/4時点)。

子どもが増える中、今回の報道は残念でなりません。時間は掛りますが、信頼回復に向け取り組んで参ります。

## 森が動く。①

【令和2年度の予算要望】※表面の続き

来年度以降も順調な人口増加と、税収の伸びが期待される流山市。一方で急減な人口増加や出生率の向上（市 1.62 人：全国平均 1.43 人）を受け、現在建設中の小中学校に加えて小学校2校の新設が必要になるなど、厳しい財政見通しが続きます。議会はこれまで以上に厳しく行政を監視することが求められています。そのような中で、個人的には次の点について要望を行いました。※一部抜粋

### ① 江戸川台駅東口周辺再整備と JETRO 跡地利用

→私が生まれ育った時代の同駅周辺は賑わいと活気に満ちていましたが、年月の経過とともに街の様相は変化

しています。駅周辺施設も老朽化したり、駅前ロータリーの形態改善を求める声は根強くあります。そ



※国から購入予定の JETRO 跡地

こで再整備に向けた調査費を要望しました。

### ② 自治会設置の防犯カメラへ補助制度の導入

→市民要望で最も高い分野が「安心安全なまちづくり」です。実現にはソフト・ハード両面の充実が不可欠ですが、今回はハード面の強化策です。現在、行政が設置する防犯カメラは高額なタイプのため年5台程度の設置です。一方で、自治会などで普及しつつある安価なタイプの設置に補助を行えば、一層の普及促進



※普及が進む安価な外国製カメラ

が期待できます。過去に要望した際には却下されましたが、市民要望の声は強く、再び要望を行いました。

### ③ 千葉県の SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）導入の成果と課題を纏めることと併せて増員も図りたい（右ページで特集）

WebSite「森りょうじ」を検索！  
また Twitter・Facebook も更新中！

## 森が動く。②

【弱い立場の方に寄り添う取り組み】

家庭・学校などの地域社会において、複雑な課題が増えています。その中で私が取り組む分野が「家庭教育支援」と「8050 問題」です。

### 家庭教育支援とは？

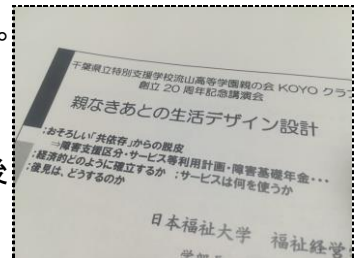
学校現場における子どもの課題が多様化・複雑化しています。子どもの貧困やひとり親の増加など家庭・社会の変化によるものや、子どもの発達上の問題（学習支援など）によるものです。現在はこれらの問題に対して学校が中心となって課題に取り組んでいます。

ただ解決に向けては高い専門性が求められることから SSW（社会福祉士・精神保健福祉士）と連携して対応していくことが不可欠です（現在は県の人材を活用）。子どもの増加に伴い、発達に課題を抱える子や困難なケースが増えており、市独自の体制強化を求めています。

### 親亡き後の問題・8050 問題とは？

高齢化社会が進む中、障害者の方や引きこもり状況にある方とそのご家族の高齢化という問題も起きています。そこで懸念されているのが、親が死去した後の、地域における生活支援や自立支援の体制整備です。

障害者の親亡き後の場合は、日中活動（仕事など）と居住と後見をどうするのかといった問題があります。



※市内の学校で開かれたセミナー

一方、引きこもり状況にある方に関しては、長期化・高齢化と併せて、親の年齢が 80 歳を迎える状況になっています（政府発表で全国で約 61 万人）。ただ正確に把握しきれないとも言われており、実数はもっと多いのではとの声もあります。

公的な支援として、『親亡き後』への対応ではグループホーム整備があり、今春、市内2ヶ所目の施設が完成しました。『8050 問題』では社会的孤立をしているケースが多いことから、関係機関とのネットワークづくりや相談体制の充実などが必要であり、現在、力を入れている分野の一つです。

【事務所】流山市中野久木 559-2  
TEL & FAX: 7155-3236